

下中居Ⅲ遺跡は花巻市大迫町の南東部に位置します。
花巻市大迫総合支所から南南東に約 1.5 km、国道 396 号線沿い東側の緩斜面上に立地します。

本遺跡は、岩手県が中山間地域総合整備事業を実施することになったため、平成 20 年に岩手県教育委員会から花巻市教育委員会が依頼を受けて発掘調査を行いました。

この調査で、「竪穴建物跡」が 2 棟確認されています。形状からみて中世頃の遺構と推測されますが、この周辺部からは中世から近世初めにかけて流通した貨幣が 5 点出土しているので、みつかった竪穴建物跡もこの頃の遺構と考えられます。また、ここが水田となる以前の「畑跡」も見つかっています。この畑跡は近代の遺構です。何の畑だったかは分かりませんでしたが、かつて大迫地域では葉たばこ「南部葉」が作付けされていた地帯であったことから、葉たばこ畑であった可能性もあります。

このほかに、縄文時代と推測される狩猟用の「陥し穴」が 4 基と縄文時代前期(約 10,000~6,000 年前)の土器や石簇、石匙などの石器が多数出土しています。



畑跡の検出状況（北東から）（2008 年調査）